

## ( 5 ) かわまちづくりの推進

人々が親しみ誇れる都市に再生するため、川や水辺の持つ多様な機能（景観形成、人々が集い楽しむ空間、身近な自然、地域の個性・魅力の発揮等）を発揮させることが重要である。このため河川空間のハード・ソフトにわたる構造改革を展開。

### ①「川の森」づくり

都市の水と緑のネットワークを構築するため、川沿いに植樹できる場所については、徹底的に植樹を実施する。都市においては木を植えるための植樹に関する基準類を新たに整備する。自治体と河川管理者が全川にわたり、植樹の可能性のチェックを行い、植樹計画を策定して川の森づくりを計画的・戦略的に推進する。

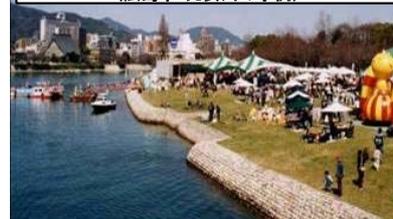


植樹された河川のイメージ  
(奈良県大和高田市・高田川の事例)

### ②都市の川を活用した賑わいの創出

川の賑わいを創出するため、既存の枠にとらわれない川と一体となったデザイン・活動を募集する提案制度を創設。市民団体、商店街等の提案の具体化検討を行う制度を創設し、舟運の復活など賑わいを創出する提案を社会実験として実施し、地域社会と河川の協力体制のもとで利活用を推進する。

利活用計画に基づく取組みのイメージ  
(広島市・元安川の事例)



### ③清澄な水が豊かに流れる川の復活

地下浸出水等の未利用水源からの導水や、適切な水資源配分の考え方のもとで環境を目的とした水利使用許可等による河川からの導水を実施。必要な水量・水質が確保された「まちの清流」を再生。

水枯れ河川解消のイメージ  
(大津市・百々川)



### ④地域の歴史・文化の薫る川づくり

近年の国民の余暇の過ごし方や観光客の嗜好の変化にあわせ、川の価値を高めるため、川に関する歴史・文化・自然等に関する情報の蓄積・発信を行うとともに、連続したフットパスの整備や NPO 等と連携したリバーガイドシステムの創設を行う。

「フットパス」のイメージ  
(最上川の事例)



### ⑤全国的な地域ぐるみの活動の醸成

市民団体、自治体、企業、学識経験者等による「かわまちづくり推進会議」（仮称）を設置し、全国大会開催、優秀事例の表彰、研修実施等によるかわまちづくりの全国的な地域ぐるみの活動の醸成を図る。